

ITUAJより

編集後記

生成AIが登場し技術が進化するにつれ、人間のような返事をしたり仕事をしたりできるようになってきました。言葉のやり取りがあまりに自然で利用者に合わせて成長するためか、恋愛感情をも芽生えさせ、AIと結婚するという人のニュースまで聞こえてきました。

感情の動きや脳内のメカニズム、そして痛みといった繊細な感覚は、これまで機械が扱うのが難しかった領域のように思われますが、科学的に解明し、人間社会に役立てようとする取組みも始まっています。

本号では、CEATEC AWARD 2025の受賞技術とともに、感情に関する科学的なアプローチ、透明性を重視した生成AI開発の取組みについても紹介しています。

どうぞご精読ください。

ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら https://www.ituaj.jp/?page_id=793

編集委員

- 委員長 亀山 渉 早稲田大学
- 委員 鈴木 勝裕 総務省 国際戦略局
- 西野 寿律 総務省 国際戦略局
 - 青野 海豊 総務省 総合通信基盤局
 - 山崎 浩史 国立研究開発法人情報通信研究機構
 - 井上 朋子 NTT株式会社
 - 中山 智美 KDDI株式会社
 - 大山 真澄 ソフトバンク株式会社
 - 薮 拓也 日本放送協会
 - 酒見 美一 通信電線線材協会
 - 長谷川一知 富士通株式会社
 - 森 正仁 ソニーグループ株式会社
 - 神保 光子 日本電気株式会社
 - 中平 佳裕 沖電気工業株式会社
 - 阿藤 友紀 一般社団法人情報通信技術委員会
 - 三木 啓嗣 一般社団法人電波産業会
 - 山崎 信 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
- 顧問 相田 仁 東京大学
- 新 博行 株式会社NTTドコモ
 - 田中 良明 早稲田大学

編集人より

変化の季節に思うこと



一般財団法人日本ITU協会

かとう けいこ
加藤 慶子

春の気配が近づき、街に少しずつ明るい色が戻ってきました。今月の巻末を担当するにあたり、ITUジャーナルの制作に携わってから一年が経つのだと思うと、季節の巡りの早さに改めて驚かされます。昨年の春は何もかも手探りででしたが、この一年でようやく流れがつかめてきたように感じています。

私が就職した頃は、既にパソコンが業務に入っていたものの、全部署で完全にデジタル化していたわけではありませんでした。インターネットも整備される前で、調べ物は辞書や社会・トレンド用語の解説書が心強い相棒でした。打ち合わせは直接会う、または、電話とFAXも頼りにするというアナログな時代で、少しずつ変わっていきました。

そんな中でも印象に残っているのが、担当作家さんと連絡が取れなくなったときのことです。固定電話しかない時代でした。締め切りが迫る中、何回電話しても不通メッセージが流れ、胸の中がざわざわしていました。最終的に「料金が未払いなのでは？」と推測し、意を決して短い手紙を書いて速達で投函しました。「お電話が通じません。お手数ですがご確認ください」という内容だけの、今思うと時代を感じさせるエピソードです。その後、無事に連絡がつかしましたが、当時はなかなかスリリングな体験でした。

いまでは通信技術の発達により、こうした心配はほとんどありません。メールやオンラインツールで瞬時に連絡が取れ、調べ物もネット検索でスムーズに進みます。原稿の受け渡しもメールやクラウドで完結し、様々な作業もパソコン上で自由度が大きく広がりました。

近年はAIをはじめ、技術全体が大きく進化しています。情報の探し方や調べ物の速度、コミュニケーション手段の多様化など、周辺環境は確実に便利になりました。技術の進歩が、仕事を取り巻く風景を変えていることを感じます。

春は新しい変化を前向きに受け止めやすい季節です。これからは技術とともに進化していく世界を楽しみながら、皆様と一緒に歩んでいけたらうれしく思います。

ITUジャーナル

Vol.56 No.3 2026年3月1日発行/毎月1回1日発行

発行人 吉田 博史

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 宮下英一、石田直子、加藤慶子

編集協力 岩城印刷株式会社

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会